

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/7 )

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	准教授	氏名	ヒラ 平、オ 尾、カス 和、ユキ 之
学歴	平成11年 3月 京都大学医学部医学科 卒業 平成20年 3月 京都大学大学院医学研究科 ( 博士課程 ) 脳統御医科学系専攻 単位取得満期退学				
学位	平成20年11月 医学博士 ( 京都大学 医博第3286号 )				
専門分野	精神医学、臨床心理学				
専門資格	医師、精神保健指定医、精神科専門医				
所属学会	平成13年 日本心理臨床学会 平成13年 日本精神神経学会 平成18年 International Neuropsychanalysis Society 平成21年 日本箱庭療法学会 平成24年 日本ユング心理学会				
受賞	平成21年 統合失調症研究会研究助成 優秀賞受賞 「統合失調症患者における社会認知障害と脳構造/機能異常についての研究」 平成19年 日本生物学的精神医学会 優秀演題賞受賞 「統合失調症における社会情動認知障害と脳構造異常」				
担当 授業科目	学 部 精神医学A・B、臨床コミュニケーション論、臨床心理学演習、臨床心理学研究法演習 ・ 、 臨床心理学総合演習 ・ 、臨床心理学実践演習 ( 精神科診断学 ) 卒業論文 大学院 精神医学特論A、臨床心理学外実習 -A・ -B、臨床心理学特演 -A・ -B・ -A・ -B、 心理療法特演 -B・ -B、修士論文				
論文指導	論文指導担当 [ 主査 ] ( 卒論 : 16名、修士論文 : 3名 ) 論文審査担当 [ 副査 ] ( 卒論 : 3名、修士論文 : 4名 )				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	精神医学 A・B	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	春 ・ 秋	約 150 名	
	授業の概要： 春学期はさまざまな精神疾患に共通する総論的事項、秋学期はさまざまな精神疾患それぞれの各論的事項 ( 診断や治療 ) を解説しながら、精神医学の基本的な考え方・経験を伝授する。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： コメントペーパーや授業アンケートを利用し、学生の声を生かしながら、講義内容の改善に取り組んだ。 教材に関する工夫としては、 ・ パワーポイントとレジュメを組み合わせた教材を作成した。 ・ 映像を積極的に利用し、現場のリアリティーを伝えるようにした。 教授方法に関する工夫としては、 ・ 講義の流れにメリハリをつけた。 ・ 双方向授業を目指し、大講義でも学生との対話を取り入れた。 ・ 携帯電話を使用した出席確認・授業アンケートを導入・実施した。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/7)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績 つ づ き	<p>授業アンケートの結果からは、上記に対して学生からの高評価を得ている。 臨床心理を学ぶ者として実生活に生かせるような精神医学についての基本的な考え方や 1 経験が伝授できた。 今後の課題： ・ 最新の内容に更新しつつ、授業内容・方法とも、より充実させていきたい。</p>				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">科目名 臨床心理学総合演習 A・B</td> <td style="width: 30%;">科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験</td> <td style="width: 15%;">実施学期 春・秋</td> <td style="width: 25%;">履修者数 17名</td> </tr> </table>	科目名 臨床心理学総合演習 A・B	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 17名
	科目名 臨床心理学総合演習 A・B	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 17名	
	<p>授業の概要：ゼミ生それぞれが自らの研究テーマを探求し、卒業研究を実施、卒業論文を作成する。</p>				
	<p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 指導に関する工夫としては、 2 ．学生個々に合わせつつ、 ．学生の自主性・積極性が発揮されるよう、工夫した。 ．学生同士の相互交流・学び合いが促進されるよう、工夫した。 ．学生同士の縦のつながりが促進されるよう、3・4回生、院生合同ゼミなどを行った。 それぞれが自分の卒業論文を完成させ、卒業論文発表会で5名が入賞するという成果を挙げた。 今後の課題： ．卒業研究を通して学生自身の力が育まれるよう、さらに工夫していく。 ．卒業論文の質をより高めていきたい。</p>				
<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</p>					
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 ・ 学生相談・学生指導 ・ 臨床心理学実習施設（医療・保健・福祉機関）訪問 ・ PSW実習施設（医療・保健・福祉機関）訪問 ・ UJIシネマプロジェクト 顧問 ・ 軽音楽部 顧問 ・ ステージプロデュース 顧問</p>				
H26 年度 研究課題	<p>1. 心理療法と脳科学のコラボレーション 2. 臨床心理学と精神医学のコラボレーション 3. 臨床心理学・精神医学と芸術・表現のコラボレーション</p>				
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要	<p>1. Social/Affective Neuroscience を背景に、心理療法でテーマとなる対人関係能力（とくに相手の心の状態を推察する心の理論能力や共感性）について、構造的 / 機能的MRIを用いた研究を行った。とくに統合失調症 ~ その前駆状態である心のリスク状態にあるクライアントを対象として、その対人関係能力（社会認知）の障害と脳構造 / 機能異常の関係を調べ、その成果を発表した。 後述 2. 神経精神分析（ニューロサイコアナリシス）を背景に、心理療法と脳科学のコラボレーションについて研究し、その成果を発表した。 後述 3. 夢と映画の関係について研究し、その成果を発表した。 後述</p>				
主 な 研 究 成 果 等 (平成 二 十 六 年 度 の)	<p>(著書) (論文) 1. 「デジタル時代に遊ぶ子どもたち イギリスとの比較からみる」、単著、平成26年8月、金剛出版、精神療法Vol.40 4 (pp. 28-31)</p>				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/7)

<p>平成二十六年(2014)年度の主な研究成果等</p>	<p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「神経精神分析の可能性 心理療法と神経科学のコラボレーション」、単独、平成26年12月、日本精神分析的な心理療法フォーラム第3回大会 シンポジウム「精神分析的な心理療法への神経科学の寄与」、立命館大学衣笠キャンパス</li> <li>2. Akimoto M, Kishimoto N, <u>Hirao K</u>, Narita K, Yama M, Kubota Y, Kato T. (2014). Psychotherapy for an elderly woman with anosognosia – images of trauma expressed in sandplay and the Baumtest. The 15th International Neuropsychoanalysis Congress in New York.</li> </ol>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>学術講演：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「心と身体と自然をつなぐ時間」、単独、平成26年5月、心身臨床学研究会 2014年度前期企画(前期テーマ「時間」) 第1回、キャンパスプラザ京都</li> <li>2. 「神経科学は心理療法に実りをもたらすのか?」、単独、平成27年2月 滋賀大学健康セミナー 第4回、滋賀大学</li> <li>3. 「夢と映画をめぐる冒険」、単独、平成27年3月、京都大学大学院医学研究科精神医学教室</li> </ol>
	<p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成23年度-平成26年度</p> <p>科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「統合失調症の社会性障害に関するマルチモーダル神経画像研究」(課題番号23390290, 研究代表者: 京都大学大学院・医学研究科精神医学教室・教授 村井俊哉) 研究分担者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>就職委員会委員、臨床物語学研究センター会議委員、大学院入試委員、PSW委員会委員</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成26年 8月 平成26年度夏期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」、於: 京都文教大学</p> <p>平成26年11月 平成26年度秋期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」、於: 京都文教大学</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年 5月 学問分野説明会 「心理カウンセラーの仕事」、於: 京都府立城南菱創高等学校</p> <p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成26年 9月 京都府総合教育センター研修講座 「精神医学からみる子どもの理解」、於: 京都府総合教育センター</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウエノ診療所 精神科医師「平16.4より」</li> <li>・ 京都大学大学院医学研究科精神医学教室 非常勤講師「平22.4より」</li> </ul> <p>平成26年 9月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「青年期のこころと夢をめぐる冒険」、於: 京都文教大学</p>
<p>平成二十五年(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Yamada M, Ueda K, Namiki C, <u>Hirao K</u>, Hayashi T, Ohigashi Y, Murai M. (2009 Jun). Social cognition in schizophrenia: similarities and differences from patients with focal frontal lesions. Eur. Arch. Psychiatry Clin. Neurosci. 259, 227-233.</li> <li>2. Miyata J, <u>Hirao K</u>, Namiki C, Fujiwara H, Shimizu M, Fukuyama H, Sawamoto N, Hayashi T, Murai T. (2009 Jun). Reduced white matter integrity correlated with cortico-subcortical gray matter deficits in schizophrenia. Schizophr. Res. 111, 78-85.</li> </ol>

( 論文 つづき )

3. Kawada R, Yoshizumi M, Hirao K, Fujiwara H, Miyata J, Shimizu M, Namiki C, Sawamoto N, Fukuyama H, Hayashi T, Murai T. (2009 Oct). Brain volume and dysexecutive behavior in schizophrenia. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 33, 1255-1260.
4. Ueda K, Fujiwara H, Miyata J, Hirao K, Saze T, Kawata R, Fujimoto S, Tanaka Yusuke, Sawamoto N, Fukuyama H, Murai T. (2010 Feb). Investigating association of brain volumes with intracranial capacity in schizophrenia. *NeuroImage* 49, 2503-2508.
5. Miyata J, Yamada M, Namiki C, Hirao K, Saze T, Fujiwara H, Shimizu M, Kawada R, Fukuyama H, Sawamoto N, Hayashi T, Murai T. (2010 Jun). Reduced white matter integrity as a neural correlate of social cognition deficits in schizophrenia. *Schizophrenia Research* 119, 232-239.
6. Kubota M, Miyata J, Yoshida H, Hirao K, Fujiwara H, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Sasamoto A, Sawamoto N, Fukuyama H, and Murai T. (2011 Jan). Age-related cortical thinning in schizophrenia. *Schizophrenia Research* 125, 21-29.
7. 「神経精神分析 (ニューロサイコアナリシス)」、単著、平成23年3月、金剛出版、臨床心理学第11巻第2号 ( pp.282-286 )
8. Kubota M, Miyata J, Hirao K, Fujiwara H, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Sasamoto A, Sawamoto N, Fukuyama H, Takahashi H, Murai T. (2011 Jun). Alexithymia and regional gray matter alterations in schizophrenia. *Neuroscience Research* 70, 206-213.
9. 「身体疾患による精神障害」、単著、平成23年8月、丸善出版、日本心理臨床学会編、心理臨床学辞典 ( pp.230-231 )
10. Koelkebeck K, Hirao K, Kawada R, Miyata J, Saze T, Ubukata S, Itakura S, Kanakogi Y, Ohrmann P, Bauer J, Pedersen A, Sawamoto N, Fukuyama H, Takahashi H, Murai T. (2011 Sep). Transcultural differences in brain activation patterns during theory of mind (ToM) task performance in Japanese and Caucasian participants. *Social Neuroscience* 6, 615-626.
11. Sasamoto A, Miyata J, Hirao K, Fujiwara H, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Kubota M, Sawamoto N, Fukuyama H, Takahashi H, Murai T. (2011 Sep). Social impairment in schizophrenia revealed by Autism-Spectrum Quotient correlated with gray matter reduction. *Social Neuroscience*. 6, 548-558.
12. Miyata J, Sasamoto A, Koelkebeck K, Hirao K, Ueda K, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Kubota M, Fukuyama H, Sawamoto N, Takahashi H, Murai T. (2012 Jul). Abnormal asymmetry of white matter integrity in schizophrenia revealed by voxelwise diffusion tensor imaging. *Human Brain Mapping* 33, 1741-1749.
13. Allen P, Luijckes J, Howes OD, Egerton A, Hirao K, Valli I, Kambeitz J, Fusar-Poli P, Broome M, McGuire P. (2012 Nov). Transition to psychosis associated with prefrontal and subcortical dysfunction in ultra high-risk individuals. *Schizophrenia Bulletin* 38, 1268-1276.
14. Ubukata S, Miyata J, Yoshizumi M, Uwatoko T, Hirao K, Fujiwara H, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Kubota M, Sasamoto A, Sawamoto N, Fukuyama H, Takahashi H, Murai T. (2013 Apr). Regional gray matter reduction correlates with subjective quality of life in schizophrenia. *Journal of Psychiatric Research* 47, 548-554.
15. 「風景構成法に身を入れる 主観と客観を越えるイメージと身体の可能性」、単著、平成25年8月、誠信書房、岸本寛史・山愛美 ( 編 ) 臨床風景構成法 ( pp. 203-222 )
16. Koelkebeck K, Hirao K, Miyata J, Kawada R, Saze T, Dannlowski U, Ubukata S, Ohrmann P, Bauer J, Pedersen A, Fukuyama H, Sawamoto N, Takahashi H, Murai T. (2013 Sep). Impact of gray matter reductions on theory of mind abilities in patients with schizophrenia. *Social Neuroscience* 8, 631-639.
17. Sasamoto A, Miyata J, Kubota M, Hirao K, Kawada R, Fujimoto S, Tanaka Y, Hazama M, Sugihara G, Sawamoto N, Fukuyama H, Takahashi H, Murai T. (2014 Mar). Global Association Between Cortical Thinning and White Matter Integrity Reduction in Schizophrenia. *Schizophrenia Bulletin* 40, 420-427.

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 5/7 )

( 学会報告、学会活動 )

1. Narita K, Hirao K, Sasaki R, Naka H, Miyata J, Tanaka S, Yama M, Kishimoto N. (2010 Jul) Congenital prosopagnosia or dissociation? - How psychotherapy works in neurological fields. The 11th International Neuropsychoanalysis Congress in Seattle.
2. Kishimoto N, Hirao K, Narita K, Tanaka S, Miyata J, Yama M. (2011 Jun). The unconscious body image and dreams derived from internal physical source. The 12th International Neuropsychoanalysis Congress in Berlin
3. Kishimoto N, Narita K, Hirao K, Yama M. (2012 Jun). From disorganization to construction. The 13th International Neuropsychoanalysis Congress in Athens.
4. Akimoto M, Hirao K, Narita K, Kanemaru A, Yama M, Kishimoto N. (2013 Aug). A psychotherapy for an elderly woman with right prefrontal damage – The roles of image in neuropsychoanalysis. The 14th International Neuropsychoanalysis Congress in Cape Town.

( その他、エッセイ・翻訳・講演等 )

学術講演 :

1. 「心身臨床に生きる脳科学 心と身体をつなぐ脳の可能性」, 単独、平成22年11月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
2. 「ロンドン留学記 脳と心のはざままで」, 平成23年1月、木曜研究会、京都大学百周年時計台記念館
3. 「心のリスク状態 ( At Risk Mental State for Psychosis ) 研究について」, 平成23年3月、京都大学大学院医学研究科精神医学教室
4. 「心のリスク状態 ( At Risk Mental State for Psychosis ) について」, 単独、平成23年8月、愛知医科大学医学部精神科学講座
5. 「広汎性発達障害の基礎知識」, 単独、平成23年8月、発達障害者乙訓圏域支援センター 乙訓ひまわり園
6. 「夢と映画をめぐる冒険」, 単独、平成23年9月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
7. 「境界を越えること 映画『パプリカ』に表現される夢と身体」, 単独、平成24年1月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
8. 「神経精神分析のはじまり 心理療法と脳科学のコラボレーション」, 単独、平成24年2月、滋賀大学保健管理センター特別ワークショップ、滋賀大学大津サテライトプラザ
9. 「神経精神分析の現在 心理療法と脳科学のコラボは可能だろうか?」, 単独、平成24年2月、京都大学大学院医学研究科精神医学教室
10. 「描画と夢と映画をめぐる主観と客観」, 単独、平成24年9月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
11. 「風景構成法に身を入れる」, 単独、平成25年2月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
12. 「神経精神分析の展開 心理療法と脳科学のコラボレーション」, 単独、平成25年2月、滋賀大学保健管理センター特別ワークショップ、滋賀大学大津サテライトプラザ
13. 「描画と夢と映画をめぐる主観と客観 イメージを介した心理療法の可能性」, 単独、平成25年3月、京都大学大学院医学研究科精神医学教室
14. 「事例研究をめぐる主観と客観」, 単独、平成25年9月、心身臨床学研究会 2013年度前期企画(前期テーマ「事例研究再考」) 第3回、キャンパスプラザ京都
15. 「神経精神分析の臨床研究」, 単独、平成26年2月 滋賀大学健康セミナー第3回、滋賀大学
16. 「精神科臨床と心理臨床のはざま」, 単独、平成26年3月、京都大学大学院医学研究科精神医学教室

その他 :

1. 山中康裕先生古稀記念特別企画『表現・身体・心』 企画・司会、共同、平成24年3月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/7)

(その他、エッセイ・翻訳・講演等 つづき)

2. 岩手県立大学大学院院生・修了生合同事例検討会 コメンテーター、単独、平成24年3月、岩手医科大学
3. ロバート・ボスナック来日特別企画『ドリームワーク』 企画・ファシリテーター、共同、平成25年3月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
4. ロバート・ボスナック来日特別企画『イメージの力：魂の救済』 企画・シンポジスト、共同、平成25年3月、心身臨床学研究会、キャンパスプラザ京都
5. 荒川有加先生『臨床家のための声のワークショップ』 企画・オーガナイザー、共同、平成25年3月、京都文教大学
6. 心理療法と「時間」フォーラム(企画・パネリスト) 共同、平成25年11月、心身臨床学研究会 2013年度後期企画第4回、キャンパスプラザ京都
7. ロバート・ボスナック先生の体系的ドリームワーク(企画・ファシリテーター) 共同、平成26年3月、心身臨床学研究会 2013年度特別企画、キャンパスプラザ京都
8. バウムの古今東西 ~時空の十字路口に佇んでイメージする力~(企画・指定討論者) 共同、平成26年3月、心身臨床学研究会 2013年度後期企画、キャンパスプラザ京都

(調査活動)

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

- |               |   |
|---------------|---|
| 平成20年-平成21年   | 先進医薬研究振興財団海外留学助成  |
| 平成20年-平成22年   | 「統合失調症患者における社会認知障害と脳構造/機能異常についての研究」 統合失調症研究会研究助成(優秀賞受賞)   |
| 平成20年-平成22年   | ロンドン大学精神医学研究所 研究員として「心のリスク状態 (At Risk Mental State for Psychosis) における社会認知障害と脳構造/機能異常の研究」に従事                    |
| 平成21年-平成22年   | Grant from The Daiwa Anglo-Japanese Foundation<br>Grant from The Great Britain Sasakawa Foundation              |
| 平成22年度        | 平成19-22年度科学研究費補助金(基盤研究C)「心理療法家の専門性と職業環境の国際比較」(課題番号20530648・研究代表者:京都文教大学・臨床心理学部・教授 名取琢自)研究分担者(フィンランドにおける研究調査に従事) |
| 平成23年度-平成24年度 | ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成研究「がん医療におけるトータル・ペインに対する多職種協働アプローチ」(研究代表者:京都大学医学部附属病院探索医療センター探索医療臨床部・研究員 成田慶一)共同研究者          |
| 平成23年度-平成25年度 | 日本心理臨床学会研究助成研究「がん医療の疼痛緩和における臨床心理学的援助の可能性」(研究代表者:京都大学医学部附属病院探索医療センター探索医療臨床部・研究員 成田慶一)研究分担者                       |
| 平成23年度-(4年間)  | 科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「統合失調症の社会性障害に関するマルチモーダル神経画像研究」(課題番号23390290, 研究代表者:京都大学大学院・医学研究科精神医学教室・教授 村井俊哉)研究分担者          |

(学内活動)

- |          |   |
|----------|---|
| 平成22年 4月 | 国際交流委員会委員「平25.3まで」<br>PSW委員会委員「現在に至る」                 |
| 平成23年 4月 | 入試実行委員会委員「現在に至る」(委員長「平24.4-平25.3」)                    |
| 平成24年 4月 | 入試委員会委員「平25.3まで」                                      |
| 平成25年 4月 | 就職委員会委員「現在に至る」(委員長「平25.4-平26.3」)<br>大学院入試委員会委員「現在に至る」 |

平成二十一〜二十五(2009〜2013)年度の主な研究成果等

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/7)

平成二十一～二十五(2009～2013)年度の社会における活動

(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)

- 平成23年11月 平成23年度秋期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」  
於：京都文教大学
- 平成24年 8月 平成24年度夏期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」  
於：京都文教大学
- 平成24年11月 平成24年度秋期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」  
於：京都文教大学
- 平成25年 8月 平成25年度夏期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」  
於：京都文教大学
- 平成25年11月 平成25年度秋期教員免許状更新講習講師、「教師と子どものためのメンタルヘルス」  
於：京都文教大学

(NPO法人等の団体への参画)

- 平成24年 4月 NPO法人ひきこもり青年自立支援パレットハウス共同作業所 理事「現在に至る」

(小中高との連携授業の講師)

- 平成23年 6月 高校模擬授業、「思春期のこころと夢をめぐる冒険」 於：大阪府立長尾高等学校
- 平成23年10月 学問分野説明会、「臨床心理学をめぐる冒険」 於：滋賀県立石山高等学校
- 平成24年 7月 学問分野説明会、「臨床心理学をめぐる冒険」 於：大阪市立高等学校
- 平成25年 5月 学問分野説明会 「心理カウンセラーの仕事」 於：京都府立城南菱創高等学校
- 平成25年 9月 模擬授業 「青年期のこころと夢をめぐる冒険」 於：京都橘高等学校

(自治体や企業における研修等の講師)

- 平成25年 6月 1. 「精神障がいの理解と支援について」 於：どうほうの家  
2. 「発達障がいの理解と支援について」 於：どうほうの家

(その他)

- 平成16年 4月 ウエノ診療所 精神科医師「現在に至る」
- 平成20年 ロンドン大学精神医学研究所(研究員)「平22まで」
- 平成22年 4月 京都大学大学院医学研究科精神医学教室 非常勤講師「現在に至る」
- 平成22年 9月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「夢をめぐる冒険」  
於：京都文教大学
- 平成23年 9月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「青年期のこころと夢をめぐる冒険」  
於：京都文教大学
- 平成24年 9月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「青年期のこころと夢をめぐる冒険」  
於：京都文教大学
- 平成25年 9月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「青年期のこころと夢をめぐる冒険」  
於：京都文教大学